

# 艇庫移転交渉が難航

## 蒲郡市 6大学の合意得られず

蒲郡市が海陽町に建設中の市営共同艇庫で、入居を予定する六大学(名工大、名大、名城大、愛大、愛院大、南山大)との交渉が難航している。二十四日の市議会でも、柴田安彦議員(無所属)の質問に、

市側は移転の合意に至っていないと明かした。現在六大学の艇庫が立つ市有地は九月末にラグーナテンボスへ売却する方針。移転の合意が得られなければ、街づくり計画そのものが狂う。(木村尚公)

問題は昨年、経営難イチ・アイ・エス(Hのラグーナ蒲郡を、第1IS)が買収したこと三セクター「蒲郡海洋開発」から旅行大手エ

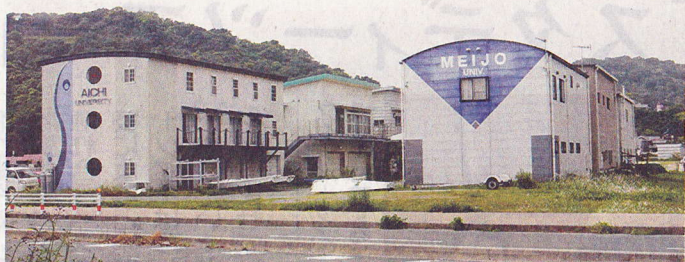
の市と大学側との交渉が進まない。現在の艇庫は各大学が自前で建てた。土地の賃貸契約は二〇三〇年まで有効で、「市が一方的に解約することはできない」(蒲郡市)。

HISはテーマパーク「ラグナシア」に隣接する六大学艇庫のある市有地が事業拡大に不可欠とし、蒲郡市は売却を約束。代替の艇庫として南隣の県施設「海陽ヨットハーバー」の駐車場に五月、新たに市営共同艇庫を着工した。

ところが、肝心の愛大などが艇庫を構える現在の6大学艇庫は蒲郡市海陽町で

振興、経済への波及効果がある」としてラグーナテンボスを核に据えた街づくり構想を描くが、仮に六大学の合意が得られなければ、ラグーナとの共同路線が乱れ、二億二千万円

で建設中の新艇庫も無駄になる。一方で、税金を投じる補償金額にも限度がある。井沢勝明副市長は「私としては合意できると考えている」と語るが…。



愛大などが艇庫を構える現在の6大学艇庫 蒲郡市海陽町で

月間は間近。市は「観光